

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073400261
法人名	有限会社 真心
事業所名	グループホーム五条 (ユニット名 第1、第2)
所在地	福岡県太宰府市五条2丁目15-15
自己評価作成日	平成29年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの認知、ADL、要望に合わせ、その人らしく生活できるよう支援している。看護師を多く配置し、胃ろう、人口肛門等についても、今までどうり生活できるよう環境を整えている。また家族との関係を大切に、要望などは柔軟に対応できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太宰府天満宮や大宰府政庁跡地に近い、閑静な住宅地に立地している。3階建の元学生寮を改装して、1階はデイサービス、2階・3階がグループホームとなっている。法人代表の「利用者第一」の熱い思いを念頭に、法人全体で利用者に接している。隣接した系列事業所とも連携を取り、季節の行事や外出レクリエーション等にも取り組んでいる。毎月、職員と利用者が一緒にクリーン活動を実施しており、地域との繋がりが持つ機会としている。法人の訪問介護サービスやデイサービスの利用から入居につながる事例も多く、住み慣れた、通い慣れた地域での生活が継続している。地域福祉の拠点として今後益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしい介護とアットホームな毎日を」という理念を掲げ、また、ホームの方針の中で「地域住民の方々との自発的な活動など連携及び協力を行うなどの地域交流を図ります」と定めている。理念と方針は一体的なものとして考えており、利用者が地域の中で地域の一員として暮らし続け、支えていくことを謳っている。	法人の理念を、全系列事業所で掲げ、グループホームの方針を立てている。毎日の朝礼や職員会議の際、確認をして日々の業務内でも気を付けている。方針については今後、より具体的に検討していく意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に月1回の近隣のクリーン活動を行っている。年に1回、創立記念でバーベキューを行い近所の方も子供連れで参加がある。また、年末の餅つきをした際は近隣に配るなど地域との交流を深めている。	毎月のクリーン活動は、事業所の活動として職員と利用者が一緒に参加し、終了時は、1階のデイサービスでお茶会をしており、地域の方が立ち寄ることもある。町内会にも加入しており、地域の清掃にも参加している。法人として老人会に出向き、介護保険に関する出前講座をしたこともあり、地域との交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、グループホームであった事例を報告し、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。また、月1回事業所スタッフ、利用者で地域の清掃活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議を二か月に一回開催し、事業の取り組み、ヒヤリハットを報告している。また外部評価の報告も行っている。	市役所、利用者、家族代表、隣組長等の参加により、2ヶ月に1回、小規模多機能事業所と合同で開催している。事業所からは行事報告等をしており、参加者からは、ボランティアの訪問希望の情報をもらうこともある。市役所からの出席もあるため、介護保険事業に関する提案なども行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	太宰府市呼びかけの地域密着型情報交換会などへ参加し、また、日常的に分からないことや疑問に思うことなどについて、担当窓口と連携を取りながら情報交換や相談を行っている。	介護保険制度に関する内容についてやり取りをしている。毎月、グループホームの空室状況を連絡している。法人としては先の熊本地震の際、受け入れ可能かどうかの問合せもあっており、日頃より連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、スタッフの意識の統一を図っている。また、できる限り行動を拘束をしないようにし利用者への声掛けには注意している。常に職員間で話し合い、見直しを行っている。	同意書を交わした上で、転落防止のために夜間、ベッドに4点サイドレールを設置している事例がある。市からも身体拘束の対象となることを言われているところで、家族とも協議しながら対応について見直しをしていく意向である。畳とマットで対応している利用者もおり、職員は身体拘束に該当する内容については理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて、高齢者虐待についての情報を共有している。また、主任、看護師が入浴時に身体の確認し、虐待がないか注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は、入居者に利用している方がいるため、職員もある程度理解できている。また、分からないことがあれば、その都度社会福祉協議会の担当者に質問を行い学んでいる。	現在、権利擁護に関する制度を利用している方がおり、毎月、社会福祉協議会から担当者が来ているので、職員は制度については理解をしている。相談が発生した場合は、主任やケアマネジャーに繋ぐ体制となっている。今後は、研修を実施する意向である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、家族が納得するまで十分に話し合いを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関付近に意見箱や相談室を設置したり、エレベーター内に苦情解決制度のポスターを貼って、苦情をくみ取りやすい雰囲気づくりに努めている。また、家族より意見をいただいた場合、速やかに主任や管理者に報告し、改善・取り組みを行っている。	これまでに意見箱を通しての事例はなく、気になることがあればどのようなことでも言ってほしいと家族等には伝えてきている。特に、利用開始直後は意見等を聞くようにして、話しやすい雰囲気作りにつとめている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回、施設長を含め、グループホーム会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は、気になること等があれば主任等にその都度話すようにしている。利用者への声かけの工夫について提案した事例があり、他の職員とも共有し日々の支援に活かしている。職員の人事異動は、法人全体の調整で行われているが、利用者には、不安感もなく落ち着いた状態が保たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、昇給については、定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から除外していない。やる気・協調性・体力を考慮し採用している。職員が希望日に休暇できるようにシフト調整を行っている。その他業務に関する研修の受講費用(食費を含む)は事業所が負担するなど働きやすい職場環境づくりをしている。	法人代表者及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から除外していない。やる気・協調性・体力を考慮し採用している。職員が希望日に休暇できるようにシフト調整を行っている。その他業務に関する研修の受講費用(食費を含む)は事業所が負担するなど働きやすい職場環境づくりをしている。	職員の採用にあたって条件等は特になく、希望休暇の取得等にもできる限りの対応がなされている。外部研修に必要な費用は法人の負担で受講できている。職員は、レクリエーションやクイズ、歌など得意なことを発揮しながら支援にあたっている。	事業所として、多くの外部研修に参加している。参加者からの伝達研修の充実を図り、参加していない他の職員の学習の機会のあり方について、今一度検討されることを期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表は常に「利用者第一」を念頭に、常々職員に対し人権や尊厳について指導している。	職員は、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちに寄り添い、一人ひとりの人権を尊重し日々努めるように指導がなされている。日頃の支援の中で、声かけについて不適切な場面が見受けられた時には、場所を変えて注意を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に関する情報を職員に提供し、研修を受ける機会の確保に努めている。新人職員には、チェックリストを用いて本人の理解度についての把握を行い、職員全員で技術向上のサポートしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの研修等での情報交換は行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活状況をよく聞いて、出来るものは取り入れて行っている。新入居者を受け入れる際はユニット会議を開き情報を共有している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要があれば話し合いを行い、聴く機会を作るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際、当施設だけでなく、デイサービスや小規模多機能などの見学・説明も行き、幅広く情報提供を行い、選択肢を広げるよう努めている。また、他の施設の見学も勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものの干し方、たたみ方、調理等の日常の生活場面を通じて知恵や慣習を教えていただくことがある。職員は、理念の「アットホームな毎日」を念頭に、暮らしを共にする気持ちで介護にあたっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中での健康等にも気配りをし、家族との連携を深める。面会時間を設けず、いつでも気軽に家族に来てもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との面会は積極的に受け入れている。また、家族からの希望があれば、利用者の外出・外泊支援を行っている。	面会時間を設定せず、いつでも来てもらえるように声をかけており、家族や知人の訪問後に、寂しさ等から気分がすぐれなくなるような場合もしっかりとフォローするように心がけている。家族と一緒に行きつけの喫茶店に行く方や、自宅の柿の木を見に行き収穫してくる方もおり、これまでの馴染みの関係の継続支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話しやすいように席の配置を工夫したり、各階でいつでも交流ができるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば相談に乗り、適切な情報の提供に努めている。退所された利用者との関係も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際は本人の思いや意向を聞いている。生活全体に寄り添い、本人の話す内容や行動、表情、しぐさ等から思いや意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	日々の生活の中で職員は利用者として1対1になる機会にゆっくり向き合い、一人ひとりの思いの把握に努めている。家族の面会時には利用者の状況を説明し、意向を聞いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や他利用者などから情報提供を受ける。また、家族、身よりの無い方などは近所の方や民生委員さんの話を聞き情報を集め、本人本位に検討している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護で介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの身体状況や生活状況の変化等を記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族が望む暮らしを聞き取り、担当者が原案を作成する。二カ月に1回の会議で利用者の現状を職員全員で共有している。関係者の意見やアイデアを生かし、本人、家族が満足する日々の生活支援となる介護計画の作成に努めている。	職員会議の中でケアマネジャーを中心に、常に利用者が安心して自分らしく生活できているかを話し合い、サービス内容の見直しが必要ないかの検討が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の生活状況を具体的に記録し、職員間で共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス、小規模多機能、ホームヘルプサービスを含めた柔軟な支援を行っている。現在は、訪問歯科、訪問リハビリの受け入れもしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に応じて、地域資源の活用に協力、支援している。入居者と共に買い物に出かけている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が付き添い、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族、全職員ともに受診結果に関する情報を共有している。本人の状況に応じ往診に切り替えたり、夜間の緊急対応もしてもらえるよう、かかりつけ医と連携をとっている。	入居前からのかかりつけ医受診を希望する利用者は、事業所の看護職員が付き添い通院支援をしている。医師との情報共有が詳細に行われ、症状の回復に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	6名の看護職員と連携し、利用者の日常の健康管理や医療的な支援をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院の際、新たにストーマや胃ろうの受け入れ・導入があり、入院先に何度か指導を受けに行った。また、その内容をユニット全職員に手技の指導を行ない、退院後もスムーズに受け入れできるよう備えた。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては入所の際、事前確認書を準備しており家族の考え、方針を聞いている。看取りを希望する場合は本人、家族、主治医と話し合いを重ね、家族の宿泊、食事の提供等、できる限り対応している。職員は介護職、医療職が連携を図りながら、支援の方針を共有している。	入居時の説明を含め、状態が変化した折に、事業所が出来る事をその都度説明し、本人、家族の希望に寄り添える介護に努めている。看取りの経験があり、医療、職員間、家族との連携を図り、ありのままを受け止め本人、家族が納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日勤帯では、看護師が常駐し対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	手順書を作成しており、全職員は災害時の避難経路、避難場所を把握している。消防署の立会のもとで年に二回避難誘導訓練を実施し、その後、総評と指導、助言を得て、記録に残し次回に活かしている。地域の方に参加、協力依頼を働きかけている。非常用物品も確保している。	スプリンクラーの設置があり、火災・地震・風水害避難手順書やスタッフ緊急連絡網、役割分担表が整備されており、年2回の火災避難訓練を実施している。地域住民への協力依頼はしているが、訓練への参加までに至っていない。	2階3階がグループホームで、避難場所として既存のベランダと反対側にも避難場所としてベランダが造設されているが、地域住民へ口頭での説明だけではなく、訓練への参加を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議において、誇りやプライバシーを損ねることのないよう対応の徹底を図っている。記録等の個人情報は、鍵のかかる事務室で管理、保管されている。	日々の介護において尊厳ある声掛けや、対応を心がけている。トイレ誘導は耳元で小声で行い、車いす利用者のトイレ使用時はホールから見えないようにカーテンで隠されている。毎日の申し送りは1階事務所で行い、個人情報が他の利用者には聞こえない配慮をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、起床から就寝まで生活全体に寄り添い本人の意思を再優先している。本人の話を傾聴し、否定せず、できる限りの対応を行っている。思いをうまく伝えられない方は表情やしぐさ等から本人が心地よいと思える過ごし方を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に二度の訪問理美容があるので、必要に応じて利用している。希望があれば、職員と共に洋服の買い物に出かけたりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れながら栄養士が献立を作成している。個別にあわせて刻み食やとろみ食が提供されているが、利用者自身で食べやすい形状にしている。各食卓に職員が同席し、全介助や見守りをしながら一緒に同じものを食べている。本人の希望があれば、朝食をパンに変えたりと柔軟に対応している。毎日献立を掲示し誰もがみれるようにしている。	各階の台所で職員が調理をするが、利用者も自分の出来る事で、調理や準備、後片づけ等参加している。食事中はテレビを消してBGMを流し、職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、同じ食事を食べ、会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立でバランスの良い食事を提供している。必要に応じて、一日の水分摂取量を記録し、脱水症状の予防に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を理解し、気持ちよく排泄できるよう支援している。できる限り、オムツの使用を減らせるように、布パンツの導入を実施している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握し、個別にトイレやポータブルトイレに誘導し、日中はリハビリパンツが取れたり、オムツ交換の回数が減るなど改善がみられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指示のもと、水分補給、散歩、繊維食品の摂取に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の心身状況に応じて、一般入浴、機械浴で1人ずつゆっくり入浴できるよう支援している。週3回、決まった時間に入浴してることが特別な希望は出ていない。	各階に浴室が設けてあり、一般浴槽での入浴が困難な利用者は1階のデイサービスにある機械浴で安心して入浴が出来る。一人ひとりの好みの湯温で、時には好みの入浴剤を入れ、ゆったりとした気分で、職員との対話を楽しむ場にもなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を定めず、一人ひとりの生活パターンを尊重している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量に関しては、バイタルチェック表に添付し、いつでも確認できるようにしている。また、薬の理解を深めるために、看護師による指導にて、会議で服薬内容の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや清掃活動等、利用者の自主性を生かしている。併設デイサービスの行事と一緒に参加をしている。(夏祭り、グルメ、観梅など)		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調、希望に応じて散歩や買い物へ出かけている。また、併設されているデイサービスや小規模多機能の外出行事にも積極的に参加している。	事業所周围は自然豊かな場所で、散歩を日課としており、利用者は交代で外出を楽しんでいる。車いす利用者も短時間でも外気にふれて気分転換ができるように促している。外出を嫌がられる場合は、ベランダや窓際で日光浴を楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、本人にも現金を渡し、管理してもらっている。また買い物等を行い、必要物品を購入できるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限をつけず、いつでも利用できるように支援している。希望があれば、個別の電話を使用もできるようにしている。贈り物があった際は、本人から電話してもらうように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年を通して、その都度利用者と季節感のある飾りを作成し、リビングに飾り、季節を感じられるよう工夫している。また、各部屋にはエアコンもあり、本人にあわせ生活できるようにしている。リビング台所で調理をおこない、音や匂いが感じられるようにしている。	共用の廊下、リビングは整理整頓がされ、安全に過ごせる配慮がされている。リビングの飾りつけは、利用者と一緒に作り、季節感を採り入れる工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間において、特に制限は設けていない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら使い慣れた物品や、思いのこもった仏壇、たんす、鏡台、好きな人の写真、自己の作品、電話機等を配置して、本人が安心して居心地よく過ごせるようにしている。	居室は、自宅で使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせ、安全に動けるよう配置を工夫している。又気持ちよく過ごせるように清掃も行き届いている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には2本手すりを設置し、段差をなくすよう努力している。また、出来ることを制限しないように留意しつつ、危険を回避するよう見守りに努めている。		